

ぎのわんの歴史・文化遺産を歩く 其の15

「キャンプ瑞慶覧⑧」

はじめに 今年度、キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区で市教育委員会が六月中旬より実施している文化財調査の内容と現段階での成果を紹介いたします。

から西北方の所(宇新城小字下原)より移転したと言われ、御嶽屋敷跡などが残っている」と書かれています。イシジャー下流の西側付近の表面踏査により、現在でも屋敷田いと考えられる石垣、区画、道跡や石切り場跡などが残っていることが確認されました。現在、キャンプ瑞慶覧にその面影はありませんが、カンナシーと呼ばれるいた大岩に伝わる宇新城と宇安仁屋の集落移動に関係する伝承とあわせて、普天間飛行場内に、戦前まで宇新城の方々が生活していた新城集落の成立・移動・発祥の在り方を知ることが出来る貴重な文化財です。

おわりに 去る六月二四日にキャンプ瑞慶覧(西普天間住宅地区)で、掘削により地下の文化財の有無を確認する試掘調査が日米合同委員会で合意され、市教育委員会で八月月中旬より試掘調査を実施していますので、今後地下から新たな発見があるかもしれません。

問合せ・文化課 ☎89314430



新城上殿遺跡遠景(南より)



新城上殿遺跡近景(北西より)



石切り場跡近景(西より)

文化財調査の内容について 昨年度は、地表面に残されている道具(遺物)や湧泉、古墓(遺構)、などの所在や現状を目視で確認する、表面踏査を喜友名地区の斜面緑地にて実施し、バシガーなど戦前の面影を残す湧泉や、棚田跡が確認されています。本年度は、安仁屋・新城の緑地を中心に表面踏査を実施しています。

新城上殿遺跡 新城出身の民俗学者であり、市の偉人である佐喜眞興英が明治大正時代の新城集落の民俗・風習等を取りまとめた『シマの話』には「新城の島(集落は何百年か前、現在の場所(普天間飛行場内)

茶ぐわーゆんたく

125

月のきれいな夜に

ススキの穂が風にそよぎ、月がきれいに見える季節となりました。この時期、戦前の宜野湾の人々はどのように過ごしていたのでしょうか。

『宜野湾市史第五巻資料編四 民俗』から、ひも解いてみましょう。

宜野湾の各地域では十五夜の日(旧暦の8月15日)、家庭ごとに細長い餅に小豆をまぶした「フチャギ餅」を作り、火の神や霊前に供えました。

野嵩では「御月お祭り」がありました。御願所で酒や果物を供え、十五夜の月が上ると同時に、太鼓に合わせて歌いながら、円陣を作って七回まわります。その後、また太鼓を打ちながら村の殿(拝所)へ移り、さらに七回まわった後、観月会を催しました。

十五夜の日、他の行事をするところもありました。普天間と大謝名では「獅子舞」があり、その後には角力大会が催されました。両地区の獅子舞は現在も続けられており、市指定無形文化財となっています。

普天間・野嵩では「廻る遊び」と呼ばれる五年越し・七年越しの周期ごとに行われる村芝居がありました。野嵩のマールアシビは1960(昭和35)年に復活し、以後子年・午年の年に続けられています。午年にあたる今年は9月14日に開催されます。

獅子舞やマールアシビでは、近隣から大勢の見物客が集まりました。その客目当てに水や天ぷら売り等、いろんな物売りがやってきて、大変にぎやかだったようです。



▲フチャギ餅のある十五夜のお供え

これらの行事は農業で生活していた時代の人々が、五穀豊穡や無病息災等に感謝し、祈願する意味があったといえます。行事は時代と共に変化していますが、昔も今も変わらず夜空を照らす月を見上げて、古へと思いをはせてみませんか。

『宜野湾市史』への問合せ
文化課 市史編集係(市立博物館内)

☎8700-93117